2021年２月２日

各　　位

会　社　名　ラクオリア創薬株式会社
代表者名　代表取締役　　谷　　直　樹
（コード番号：４５７９）
問合せ先　取締役　　河田　喜一郎
（TEL．052-446-6100）

中期経営計画の提出等について

当社は、2020年12月28日に提出いたしました2020年12月期から2022年12月期に係る中期経営計画（Gaia 2021）の売上・損益目標の見直しを行いましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、当該資料については、当社のホームページに掲載いたします。

URL	https://www.raqualia.co.jp/ir/
掲載日	2021年２月２日

【添付資料】
中期経営計画の修正に関するお知らせ

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意
業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上

2021年２月２日

各　　位

会　社　名　ラクオリア創薬株式会社
代 表 者 名　代表取締役　　谷　　直　樹
（コード番号：４５７９）
問 合 せ 先　取締役　　河田　喜一郎
（TEL．052-446-6100）

中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、2021年２月２日に公表した「営業外収益及び営業外費用（為替差損）の計上並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」及び、最近の業績動向等を踏まえ、2020年12月28日に公表した2020年12月期～2022年12月期中期経営計画（Gaia　2021）に関し、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．売上・損益目標修正の概要

【見直後】　（百万円）

	事業収益	事業費用	営業利益（△）	経常利益（△）	親会社株主に帰属する当期純利益（△）
2019年度通期（実績）	1,702	1,715	△15	21	5
2020年度通期（計画）	1,107	1,593	△486	△527	△606
2021年度通期（目標）	2,700	2,331	369	376	319
2022年度通期（目標）	2,532	2,154	377	392	326

【見直前】（2020年12月28日公表）　（百万円）

	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2019年度通期（実績）	1,702	1,715	△15	21	5
2020年度通期（計画）	852	1,605	△753	△759	△843
2021年度通期（目標）	2,700	2,331	369	376	319
2022年度通期（目標）	2,532	2,154	377	392	326

２．修正の理由

当社は、2021年２月２日に公表いたしました『営業外収益及び営業外費用（為替差損）の計上並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ』及び最近の業績動向等について検討した結果、2020年12月28日に公表しました『2020年12月期～2022年12月期中期経営計画（Gaia 2021）』の修正を行うことといたしました。

修正の主な増減要因は以下の通りです。

2020年12月期の事業収益につきましては、前回発表予想比255百万円増加（予想比29.9%）する見通しとなりました。これは主に、韓国におけるtegoprazanの販売が新型コロナウイルス感染症の流行拡

大にも拘わらず好調で、前回発表予想よりも販売ロイヤルティが30%以上増加したことによります。事業費用につきましては、委託試験等の研究開発費や特許費用等の発生が前回発表予想比12百万円減少（予想比△0.1%）したことにより、営業利益は前回発表予想比267百万円増加（予想比35.5%）する見込みです。営業外損益につきましては、為替レートが円高基調に進んだことから為替差損が31百万円増加し、経常利益は前回予想比232百万円増加（予想比30.6%）となる見通しです。

以上の結果、事業収益1,107百万円（前回発表予想852百万円）、営業利益△486百万円（同△753万円）、経常利益△527百万円（同△759百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益△606百万円（同△843百万円）に修正いたします。

2021年12月期、2022年12月期につきましては、現在、見直し中であるため、前回の業績予想を据え置きます。なお、当社は、新型コロナウイルス感染症の影響が本中期経営計画期間中（2020年12月期～2022年12月期）も続くという前提を置いております。

新型コロナウイルス感染症の収束の時期等の見通しが立たない現状において、新型コロナウイルス感染症による当社グループの中長期業績への影響は現時点では見通すことが困難な状況です。今後、新型コロナウイルス感染症の流行状況や事業環境の変化等により、修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示してまいります。

※修正箇所は下記をご参照下さい。

（修正箇所一覧表）

修正箇所	修正前	修正後
2020年12月期業績予想（P6）	（※表内） 2020年12月期（8/14計画） 事業収益　1,579 事業費用　1,840 営業利益　△260 経常利益　△256 親会社株主に帰属する当期純利益　△333 2020年12月期（見込み） 事業収益　852 事業費用　1,605 営業利益　△753 経常利益　△759 親会社株主に帰属する当期純利益　△843 （※表内） 増減（前回計画/新見込み）欄を追加 事業収益　△46% 事業費用　△13% 営業利益　― 経常利益　― 親会社株主に帰属する当期純利益　―	（※表内） 2020年12月期（12/28計画） 事業収益　852 事業費用　1,605 営業利益　△753 経常利益　△759 親会社株主に帰属する当期純利益　△843 2020年12月期（見込み） 事業収益　1,107 事業費用　1,593 営業利益　△486 経常利益　△527 親会社株主に帰属する当期純利益　△606 （※表内） 増減（前回計画/新見込み）欄を追加 事業収益　30% 事業費用　△1% 営業利益　― 経常利益　― 親会社株主に帰属する当期純利益　―

修正箇所	修正前	修正後
中期経営計画「Gaia2021」の概要と数値(P12)	2020年12月期（見込み） 事業収益　852 事業費用　1,605 （内）人件費　667 （内）研究開発費　246 営業利益　△753 経常利益　△759 親会社株主に帰属する当期純利益△843 為替（米ドル/日本円）　105.00	2020年12月期（見込み） 事業収益　1,107 事業費用　1,593 （内）人件費　666 （内）研究開発費　239 営業利益　△486 経常利益　△527 親会社株主に帰属する当期純利益△606 為替（米ドル/日本円）　103.52
事業収益の推移（P13）	（※図） 2020年（計画）棒グラフの値は 852百万円	（※図） 2020年（計画）棒グラフの値を 1,107百万円に増額
費用の概要（P14）	2020年12月期（見込み） ① 事業原価　121 ② 事業費用　1,483 （内）人件費　667 （内）研究開発費　246 （内）管理統制費　219 （内）施設関連費　221 （内）その他　130 合計（①+②）　1,605	2020年12月期（見込み） ① 事業原価　138 ② 事業費用　1,455 （内）人件費　666 （内）研究開発費　239 （内）管理統制費　206 （内）施設関連費　216 （内）その他　128 合計（①+②）　1,593

※「2020年12月期～2022年12月期中期経営計画　(Gaia　2021)（修正)」は、次ページ以降をご参照下さい。今回の修正箇所は2020年12月期の通期連結業績予想の修正に限定されるため、P6、P12-P14の４ページのみを掲載しております。

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意
業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上

2020～2022年12月期 中期経営計画（Gaia 2021）（修正）

前回公表：2020年12月28日
今回公表：2021年２月２日（東証ジャスダック　グロース：4579）

RaQualia Pharma Inc.

Copyright©　2020　RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved

2020年12月期 業績予想

（単位：百万円）

【連結】	2019年12月期（実績）	2020年12月期（12/28計画）	2020年12月期（見込み）	増減（前回計画/新見込み）
事業収益	1,702	852	1,107	30%
事業費用及び事業原価	1,718	1,605	1,593	△1%
営業利益又は営業損失（△）	△15	△753	△486	—
経常利益	21	△759	△527	—
親会社株主に帰属する当期純利益	5	△843	△606	—

トピックス

- 事業収益は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けた経済活動の停滞や国内外の移動制限、臨床試験施設の閉鎖等により、tegoprazanの日本での開発にかかわる協議は進捗したものの年内の成約には至らず、来期以降に持ち越されたことに加え、提携先企業におけるイオンチャネル創薬プログラムにかかわる臨床試験の一部や導出交渉も新型コロナウイルス感染症の影響を受けて後ずれしました。このため、当初見込んでいた契約関連の収入がほぼ全額、翌期以降にずれ込む公算が大きくなったことを勘案しました。
- 事業費用につきましては、委託試験等の研究開発費が翌期にずれ込んだことを勘案しました。

Copyright© 2020 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved

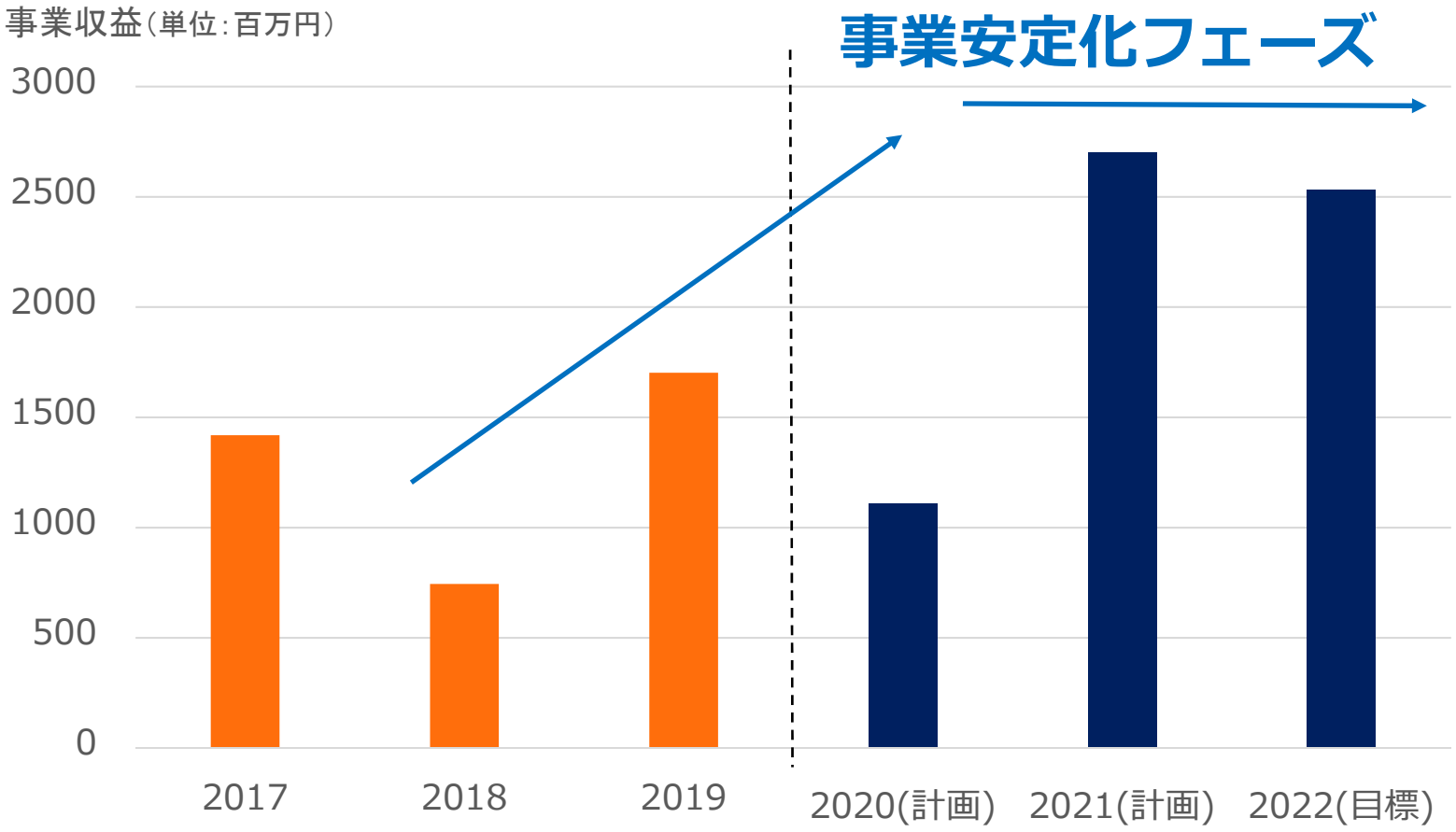
中期経営計画 「Gaia2021」の概要と数値目標

（単位：百万円）

【連結】（単位；百万円）	2018年12月期（実績）	2019年12月期（9/6時の計画）	2019年12月期（実績）	2020年12月期（見込み）	2021年12月期（計画）	2022年12月期（目標）
事業収益	744	1,756	**1,702**	**1,107**	2,700	2,532
事業費用	1,819	1,840	**1,718**	**1,593**	2,331	2,154
（内）人件費	607	625	**616**	**666**	712	743
（内）研究開発費	451	267	**221**	**239**	556	487
営業利益又は営業損失（△）	△1,075	△84	**△15**	**△486**	369	377
経常利益又は経常損失（△）	△1,064	△82	**21**	**△527**	376	392
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社に帰属する当期純損失（△）	△1,104	△106	**5**	**△606**	319	326
為替（米ドル/日本円）	110.91	110.00	**109.55**	**103.52**	105.00	105.00

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。
Copyright© 2020 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved

事業収益の推移



契約一時金・マイルストン収入による事業収益の着実な増加から
ロイヤルティ収入による事業安定化フェーズへの移行へ

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。
Copyright© 2020 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved

費用の概要

（単位：百万円）

【連結】（単位；百万円）	2018年12月期（実績）	2019年12月期（9/6時の計画）	2019年12月期（実績）	2020年12月期（見込み）	2021年12月期（計画）	2022年12月期（目標）
①事業原価	89	272	262	138	340	221
②事業費用	1,730	1,568	1,453	1,455	1,991	1,933
（内）人件費	607	625	616	666	712	743
（内）研究開発費	451	267	221	239	556	487
（内）管理統制費	255	273	236	206	289	267
（内）施設関連費	204	235	221	216	283	251
（内）その他	213	168	159	128	151	185
合計（①＋②）	1,819	1,840	1,715	1,593	2,331	2,154

2020年12月期	人件費は創薬基盤の拡充を目指した研究員の採用等で増加。 研究開発費は自社プログラムの開発を進捗させるための委託研究費の増額で増加。 管理統制費は研究開発活動の加速化を図り、専門家等のサポートを増やす。
2021年12月期	人件費は増額。創薬基盤の拡充に加え、開発を加速させるための人員を採用。 研究開発費は委託試験費が増加する見通し。
2022年12月期	人件費は増額。創薬基盤の拡充に加え、開発を加速させるための人員を採用。

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。
Copyright© 2020 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved